

メリーゴーランド

平成 27 年 7 月 11 日、乳幼児用玩具のメリーゴーランド 2 組が、大阪の日本キューピークラブ様から横浜館に贈られました。長さ 90 センチと 80 センチの大型ですが、左 90 型には、ゼンマイ仕掛がありませんので自動回転できません。



早速、新入り 2 組のメリーゴーランドに、3 階の「映画・ALWAYS 3 丁目の夕日」コーナーの中からメリーゴーランド 1 組を加え、計 3 組を横浜館 1 階広間に展示致しました。従いまして、ご来館の方々に最初にお目に触れていただくセルロイド展示品が、メリーゴーランドということになりました。

\*\*\*\*

「ALWAYS 3 丁目の夕日」および「続・ALWAYS 3 丁目の夕日」は、平成 24 年 1 月に封切られた映画で、同時期に日本テレビが金曜夜 9 時から 2 週にわたり放送して好評でした。



この映画の時代背景は、東京タワーが完成した頃の1958（昭和33）年に遡ります。埃が舞う未舗装の道路を挟んで、古本屋、駄菓子屋、貸本屋、煙草屋、バー、小劇場、自動車修理工場（鈴木オート）などが隣あう気さくな街です。その住民は、売れない小説家（茶川龍之介）、劇場の踊り子（小雪）、鈴木オート社長夫妻、集団就職の従業員、子供たち、スクーター往診の医者などです。生活の喜怒哀楽がドラマチックにコメディックに描かれています。この映画に、メリーゴーランドが2ヶ所に登場します。



（映画の一コマ）昭和35年が暮れていくとき、自動車修理の鈴木オート社長は、長男一平が生まれた時に撮ったビデオのテープを見て昔を懐かしむ。そのビデオには、一平の



誕生祝いに隣組から戴いたお祝い品（セルロイド製のメリーゴーランド）を妻（薬師丸ひろ子）が廻して遊んでいる姿が写っている。

（映画の一コマ）年が経って昭和39年になった。第1回東京オリンピック中継を見るために、街で唯一台、白黒テレビがある自動車修理工場に街の人達が集まった。結婚した茶川龍之介と小雪の夫婦もいました。

テレビ画面は、オリンピック行進が始まりました。皆の目がテレビに釘づけになります。そのとき、小雪の陣痛が始まったので大騒ぎになりました。

無事に男の児が生まれました。お祝いに、セルロイド製メリーゴーランドを贈られました。茶川が、メリーゴーランドを廻しながら赤ん坊のお守りをしています。

\*\*\*\*\*



「ALWAYS 3丁目」の映画撮影が終わった時点で、メリーゴーランドやセルロイド製の化粧道具などが、所有者のセルロイドハウス横浜館に戻って来ました。

しかし又、貸し出されることになりました。今度の貸し出し先は、三越百貨店さんです。三越さんが《ALWAYS 三丁目の夕日》の催事を行うことになった

のです。日本橋の三越さんの「ALWAYS 3丁目の夕日」の催場に行きました。暗い個室に吊るされ、サーチライトに照らされたメリーゴーランドに大変な威厳を感じました。



ALWAYSのポスター、鈴木オートの手拭、3丁目の家々、電車とレールなどのプラモデルを販売していましたので買って帰りました。

三越さんは、交通会館、名古屋、大阪でも「ALWAYS」のイベントを開かれたようです。

\*\*\*\*\*

メリーゴーランドは何時、どのようにして日本の市場に出現したのでしょうか。平凡社・大百貨辞典に、メリーゴーランドの由来について次のように記しています。

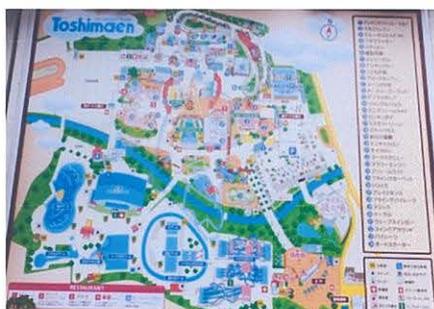
### メリーゴーランド merry-go-round

動物や乗物の模型を回転する円盤に固定した遊戯機械。回転木馬とも呼ばれる。馬上試合に由来するスポーツの練習機。1860年ころフランスで考案され、しだいに優雅な遊びに変わったのが起源と考えられる。70年ころ、イギリスのサペッジ Frederick Savage (1828~97) が、蒸気機関によって円板を回転させ、クランクで木馬を上下させる装置のпатентを取り製作を開始した。

黄金時代を迎えたのは、20世紀初頭のドイツである。なかでもハッセ Hugo Haase が1907年に製作した<エル・ドラド>は、当時の技術と芸術の精華といわれ、アメリカを経て現在は東京の豊島園にある。日本の初登場は1903年大阪の第5回内国勸業博覧会で当時は快回機と訳された。常設端07年ころの浅草で、ついで12年同じ浅草のルナパーク、さらに花屋敷にも導入された。小説などに取り上げられた有名な木馬館は、18年に昆虫館が改装されたものである。

中藤保則

豊島園へは、池袋駅から西武線・豊島園行き 12 分。(10 分間隔で運転)。園内を石神井川が流れています。エル・ドラドは、豊島園にて 108 年前のままの姿で毎日運転されています。



エル・ドラドの彫刻は総てが木製、すべてが手づくりです。(倉庫に復元を待っている木馬も沢山あるようです)

回転台が 1 階 2 階 3 階になっています。写真・人が腰かけている所が 2 階です。エル・ドラドは、手造りのため馬の表情がそれぞれユニークです。

エル・ドラドは、機械仕掛けの芸術的乗り物として世界的に重要な文化遺産として 2010 年に日本機械学会から「機会遺産」に認定されました。これからは、世界遺産に認定される、ことになると思われます。

\*\*\*\*\*



左の写真は、左側と右側から撮ったものです。セルロイドの回転木馬です。

関西の遊園地が閉鎖された時にセルロイドハウス横浜館に持ち込

まれました。現在、2F に展示しています。

回転木馬は、merry-go-round。乳幼児玩具のメリーゴーランドは、くるくる廻る日本製セルロイドです。再考いたします。(了)

2015年7月20日